

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	2022年 9月 22日 (18:00～ 19:00)
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	・野村恵美・岩崎良子・水口真由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治 ・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀洋平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥 ・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	13人	1人		17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 出勤時、業務に入る前に日報(申し送り)に目を通すだけでなく内容を理解・把握し、疑問点や不明な点があれば当日のリーダーへ納得いくまで聞き解決するようにする。又、リーダーになった職員は他職員より質問をされても答えられるよう意識を持つ。 フロアの見守り等にて昼のミーティングに参加できなかった職員への伝達を行う時間を別途つくる。メールや手紙なども活用し家族が遠方に住んでいても情報交換を行いより密な関係を築けるようにしていく。又、日々の関わりの中から利用者や利用者家族を知り、想いを探る努力をしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 出勤時、業務に入る前に日報(申し送り)や個人の介護記録に目を通し情報収集をしている。不明な点は他職員に再確認をし理解をしてから業務に入る様にしている。昼のミーティングに参加出来なかった職員への伝達については、ミーティング終了後に日報を閲覧してもらい、口頭でも情報の伝達をするようにした。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3人	12人	2人		17人
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	3人	14人			17人
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	4人	12人	1人		17人
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2人	13人	2人		17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①、②については利用開始前に本人・家族と必ず面談を行い、本人や家族のニーズを汲み取り適切なサービスを提供している。連携を密に取り、変更が必要の場合は都度相談し支援方法等の変更を行う事で各利用者にとって、より良い支援が出来る様になっている。</p> <p>③、④については新規利用時にリラックスできる様に席の配置などにも配慮している。散歩やフットケア等の個別対応ができる時間も有効活用し、コミュニケーションを取りながら本人の環境の変化に伴う不安の軽減にも配慮している。</p> <p>訪問時・電話等にて家族から得た新たな情報は毎日のミーティングなどで職員間で共有し、家族と話す機会がある時はこちらからも声掛けを行い信頼関係を築けるように努力している。</p>	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 家族が遠方であったり、利用開始までに期間が短く十分に情報収集が出来ていないと感じる事があった。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 今後も各職員は出勤前には申し送り・個人の介護記録に目を通し、情報の確認をしてから業務に入るようにし個々の職員が自ら情報収集を行う様に意識づけをして行く。又、当日のリーダー職員はミーティング終了後参加できなかった職員へ業務に戻る前に必ず情報の伝達・共有をして行く。 家族や本人からの情報が得られにくくても、日々関わる中で行動や表情・些細な変化も全職員で共有しニーズや想いを知る努力をして行く。又、送迎時や電話等の時間も活用をし家族と密に連携を取ると共に信頼関係を深められる様にする。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

2. 「～したい」の実現
(自己実現の尊重)

メンバー
・野村恵美・岩崎良子・水口眞由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	14人	2人		17人

前回の改善計画
<ul style="list-style-type: none">・継続し、月毎に決めている2～3名の利用者の個人ファイルに入っているアセスメントシート（生活歴等記入されたもの）やセンター方式に全職員が目を通し、情報の再確認・把握をしていく。自分の担当利用者に変化があればその都度センター方式へ追加記入しミーティングや職員会議にて情報共有していく。・記録の記入に携わる際は各利用者の介護記録に挟んでいるフローシート（短期目標等記載されたもの）を確認しそれに沿った記録を行い日々の業務を通して担当利用者以外のニーズや想いも把握できるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
<ul style="list-style-type: none">・毎月2～3名ずつ実施している利用者のアセスメントシート等の再確認は各職員出来ている。追加の情報があれば日々のミーティング等で共有し個人の介護記録にも記入をしているが、センター方式への追加記入は徹底が出来ていなかった。・介護記録やフローシートの記入は各利用者の目標に沿い記録するよう心掛けている。関わった際は詳細を介護記録へ記入するようにし、個々の目標やニーズの把握に努めた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 「本人の目標（ゴール）」がわかっていますか?	3人	12人	2人		17人
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	3人	12人	2人		17人
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	2人	13人	2人		17人
④ 実践した（かかわった）内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	3人	13人	1人		17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①、②、③については各利用者のフローシート（短期目標等記載されたもの）からニーズや目標を確認・把握が出来ている。又、ケアプランに沿った記録を行い利用者の変化なども職員間で共有している。毎月2～3名ずつ利用者を決めアセスメントシートから生活歴などの情報の再確認も継続して行っている。</p> <p>④についてはいつもと違う言動や些細な変化も職員間で共有が出来ている。又、支援方法を変更しようであったかもミーティングなどで共有し、振り返りも行い次の対応に活かしている。</p>	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>・認知症もあり意思表示の少ない方や自己決定が困難である方においては、目標やしたい事の把握や理解が難しく感じることもある。</p> <p>各利用者の～したい・ニーズの把握に努めているが、担当利用者以外に対してはまだ意識が薄い所がある。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none">・今後も職員1名に対し利用者2～3名の担当制とし、センター方式を活用してその人を知る努力をして行く。日々の関わりの中から言動などにも注視をしながら、希望に沿った支援を提供できるようにして行く。新たな情報等があれば皆で共有すると同時に担当職員がその日のうちにアセスメントシートへの追加記入が出来るよう声掛けしあい習慣化できるように取り組む。・各利用者の目標の把握ができるように毎日のフローシートの記入を持ちまわりにし、全職員でその目標に沿った支援をおこない、目標達成にむけ関わっていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

3. 日常生活の支援

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口眞由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
 ・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
 ・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	14人	1人		17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の意見や支援方法が一致した場合はすぐにケア方法を変更し対応していく。そうでない場合はうやむやにならないように毎日のミーティングや職員会議も活用し支援方法等を全職員で検討し、利用者にとってより良い方向に向かえるように支援する。 引き続き送迎時や電話時など家族と関わる場面では、こちらから声掛けし家族や本人の声や想いを聴取する。メールや手紙なども活用し家族が遠方に住んでいても情報交換を行いより密な関係を築けるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の体調や気持ちの変化に気づいた場合は、すぐに情報を共有し本人にとってより良い支援が出来るように職員間で話し合い、対応をしている。家族に会う機会がある時は、家での様子や体調の変化などなるべく多くの情報を得られるようにし個々のケアに活かしている。遠方に住んでいても、疎遠になる事のないよう電話やメールなどを通じて情報交換できるように努めている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	5人	10人	2人		17人
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5人	12人			17人
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	4人	12人	1人		17人
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5人	12人			17人
⑤ 共有された本人の気持ちや対象の変化に即時的に支援できていますか?	4人	12人	1人		17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①については、個別のアセスメントシートやセンター方式の活用、家族や本人からの情報により把握している。 ②については健康チェック表（個別に排泄時間や形態、食事量などを記入したもの）を活用し、個々の状態を見ながら食事形態や量・食器の変更など全職員で検討し対応している。 ③、④、⑤については日々関わる中で感じた変化は、毎日のミーティングにて情報を共有し対応を検討すると共に対応を変えてみてどう変化があったかも記録に記載している。又、その情報を家族にも報告し家での様子も情報収集するようにしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
・概ねの情報収集（生活環境等）は出来ているが、認知症の為本人からの正確な情報が得られにくい事がある。又、家族が遠方であったり直接会う機会が少なく、細かな情報収集が難しく感じる事がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
本人・家族と会う機会や連絡を取る際は、こちらから声を掛け積極的に関わりを持ち何気ない言葉や行動からも新たな情報を得る努力をして行く。気持ちや希望・更に細かな情報が引き出せるような声掛けを行い信頼関係の構築に努める。 又、各利用者の担当職員が中心となり日々の関わりから情報収集をして行くと共に毎日のミーティングなどを通じてスタッフ間で共有をしていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口真由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	13人	2人		17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、2～3名ずつ行っている各利用者のセンター方式・個人ファイルの確認と情報の把握を継続し利用者への理解を深めるとともに、新たな情報を得た際は職員間で共有していく。 又、毎日の関わりや個別に設けている散歩などの時間も活用し本人の言動や表情など些細なことから想いを汲み取るようにしていく。送迎時、電話時など家族と関わる機会がある時は今後もこちらから声掛けし新たな情報をメールや手紙なども活用し家族が遠方に住んでいても情報交換を行いより密な関係を築けるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施している各利用者のセンター方式や個人ファイルの確認は行っているが月によってはできていない職員がおり全職員に徹底までに至っていなかった。新たな情報については個人の介護記録に記入し、ミーティングでも活用し情報共有をしている。毎日数名ずつ、散歩やフットケア等を行い個別に関わる時間をもち話などから各利用者の気持ちを汲み取るようにした。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	3人	12人	2人		17人
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2人	13人	2人		17人
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	3人	12人	2人		17人
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	3人	11人	3人		17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①、②については毎月2～3名の利用者を決め、センター方式・アセスメントシート(生活歴などが記載されたもの)の確認をし利用者の情報を把握・再確認をしている。散歩やフットケア等マンツーマンで利用者に関わる時間を作ることで、利用者の気持ちや想いを引き出せるようにしている。又、かかりつけ医の受診介助など利用者と地域との関わりが切れないようにしている。</p> <p>③については、送迎時や連絡帳を活用し家族から情報を得ている。新たな情報や本人の些細な変化も毎日のミーティングを通じ共有し、個々の介護記録へ記入している。</p>	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの職員ができていますが、毎月2～3名ずつ行っている各利用者のセンター方式・個人ファイルの再確認が全職員に徹底が出来ていない。 又、認知症の方も多く本人からの情報が得られにくい。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施している各利用者のセンター方式・個人ファイルの確認は継続しておこなって行く。職員の中から係を決め、再確認を行ったかどうかの有無をチェックし、できていない職員へはその都度声を掛け促し意識づけをして行く。 認知症であっても利用者の言動から背景を探り、想いを汲み取る努力をして行く。都度情報は全職員で共有し家族とも密に連携を取り、ケアの質の向上に繋げて行く。今後も家族とは電話・メール等も活用し情報交換すると共に関係を深められるようにする。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口眞由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	9人	4人	1人	17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 今後も通勤時の挨拶や毎週行っている地域清掃など小さな事を継続しておこない、地域住民との関係性を深められるように努力して行く。 コロナウイルスが落ち着き自由な行動が可能になった時は運営推進会議などを活用し地域と協力し行事を開催して行く。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時の地域住民への挨拶などは継続して行い、地域との関わりが切れないようにしている。新型コロナウイルス感染予防の為にイベントの開催・参加は出来ておらず、地域の方と交流する機会が少なかった。行事やレクリエーションなどで金毘羅八幡宮へ参拝に行くなど地域資源の活用をする様に努めている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	3人	11人	3人		17人
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が適切に提供されていますか?	8人	8人	1人		17人
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	4人	13人			17人
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	4人	13人			17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ②、④については家族や利用者のニーズに沿い通い・訪問・泊りが適切に提供出来ている。職員間での報告・連絡相談も柔軟に行う事で、急な利用の変更・病院受診などにもスムーズに対応できている。 ③については本人の変化や日々の言動を、毎日のミーティングを活用し共有が出来ている。些細な変化も家族へ報告し、自宅の様子も聴取する様にしている。その時の利用者の身体状況などに合わせ、対応方法の変更も都度職員で検討し柔軟に対応している。 	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で、地域のイベントへの参加・行事の開催も出来ておらず地域の方と交流する機会が少なくなっている。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であっても今できる事を継続して行い(通勤時の挨拶等)、地域との関係性が切れぬ様にして行く。行事などを通じ地域資源の活用をすると共に、新たな資源の情報収集や把握をして行く。コロナウイルスが収束した時には、地域密着委員会や運営推進会議を活用し地域との連携を図り、イベント等を一緒に企画・開催をして地域との関係性を深められるように努力して行く。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

6. 連携・協働

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口眞由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英久美・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	12人	1人	2人	17人

前回の改善計画
<ul style="list-style-type: none"> 今後も通勤時の挨拶や毎週行っている地域清掃など小さな事を継続しておこない、地域住民との関係性を深められるように努力して行く。 コロナウイルスが落ち着き自由な行動が可能になった時は運営推進会議などを活用し地域と協力し行事を開催して行く。 メールや手紙なども活用し家族が遠方に住んでいても情報交換を行いより密な関係を築けるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスが収束せず、イベントや運営推進会議の開催が困難な状況が続いている。通勤時の地域住民への挨拶や、地域密着委員会での金比羅通信 (広報誌) の発行などコロナ禍であってもできる交流を行っている。利用者家族においては電話だけでなくメールなども活用し、都度情報交換を行い関係の構築に努めている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① その他のサービス機関 (医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所) との会議を行っていますか?	2人	9人	5人	1人	17人
② 自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		4人	8人	5人	17人
③ 地域の各種機関・団体 (自治会、町内会、婦人会、消防団等) の活動やイベントに参加していますか?		3人	6人	8人	17人
④ 登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		4人	5人	8人	17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①については管理者・ケアマネジャー・看護職員が中心となり対応し、各機関と連携しながら情報交換をしている。又、そこで得た情報は他職員へ共有するようにしている。	
③、④についてはコロナ禍の為イベント等の開催は出来ていないが、金比羅通信を作成し回覧板に入れてもらうなど施設との繋がりが持てるように努力している。毎週木曜に来る移動販売 (ロバのパン) の購入で地域住民が施設を訪れる事がある為、必ず挨拶をするなど少しでも交流が出来るよう努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
新型コロナウイルスの感染予防の為、地域の方と交流できる機会も少なく連携・協働ができているとは言えない。面会制限もあり、外部の人が施設内に入る事が出来ず訪れる機会も減っている。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍であっても今できる事を継続して行い (通勤時の挨拶等)、地域との関係性が切れない様にして行く。 コロナウイルスが収束した時には、同一建物内の他事業所とも連携しながら地域密着委員会や運営推進会議を活用し地域との連携を図る。 又、イベント等を一緒に企画・開催をして地域との関係性を深められるように努力して行く。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

7. 運営

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口眞由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	6人	9人	1人	17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 今後も通勤時の挨拶や毎週行っている地域清掃など小さな事を継続しておこない、地域住民との関係性を深められるように努力して行く。又、地域密着委員会などを活用しコロナ過であっても出来る地域との交流方法も考えて行く。 コロナウイルスが落ち着き自由な行動が可能になった時は運営推進会議などを活用し地域と協力し行事を 開催して行く。 利用者獲得にむけ限られた職員が携わるのではなく、見学时や体験時にこちらから挨拶をする・職員一人一人が事業所の良い所をアピールし全職員で関わるようにして行く。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 通勤時に地域住民に会った際は継続し必ず挨拶をするようにしている。新型コロナウイルスの感染予防の為、イベント等の開催・参加も困難で地域の方との交流する機会は少ないが地域密着委員会での施設の広報誌の発行など今出来る事を行い情報発信をしている。面談等に来た人においてはこちらから挨拶をする様に心がけ、事業所の雰囲気作りなど全職員で携わるようにしている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	3人	13人	1人		17人
② 利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1人	13人	3人		17人
③ 地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		12人	4人	1人	17人
④ 地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		8人	7人	2人	17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①については、毎日のミーティングや職員会議で自分の意見を言える雰囲気があり発言ができている。又、小規模事務所内に意見箱を設置しており、誰でも気づきや意見を投函できる様にしている。意見があればその都度職員会議等で全職員にて改善に向け話し合い、対応方法や業務内容などの変更をしている。</p> <p>②、③については意見があった際は、管理者が中心となり情報を毎日のミーティングや職員会議を活用し、職員間で共有すると共にケースによっては本部に協力を仰ぎ迅速に対応している。</p>	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響でイベント等もなく、施設への出入りも制限があり地域の方と交流できる機会が少なくなっている。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 今後もコロナ過であってもできる事を継続して行い情報発信をして行く。地域住民と会う機会がある時は必ずこちらから挨拶をするなどアピールを続け、関係性が深められるよう努力をして行く。 コロナウイルスが落ち着き規制緩和がされた際は運営推進会議や地域密着委員会を活用し地域と協力して行事を開催して行く。 利用者獲得についても勉強会のテーマに（見学者の対応・説明など）取り入れ限られた職員だけが携わらず全職員で携わる意識を持つようにして行く。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー ・野村恵美・岩崎良子・水口真由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	4人	10人	3人		17人

前回の改善計画
<ul style="list-style-type: none"> 継続し毎年新年度に立てている個人の年間研修計画をもとに自己学習をしていく。勉強会では毎月講師となる職員・テーマを変更している為、自身が講師になった月は学んだ内容を取り入れるとともに発表の場を設け個々の意識向上を図って行く。 又、認知症実践者研修・実践者リーダー研修などのすぐに業務に活かせる研修を管理者が中心となり勤続年数などから計画的に参加できるようにし知識・技術の取得、向上を図る。
前回の改善計画に対する取組み結果
<ul style="list-style-type: none"> 毎月実施している勉強会はコロナウイルス感染予防の為全職員で集まって開催する事が困難であったが、講師となった職員が各テーマに沿った資料の配布や問題形式にするなど工夫を凝らし今できる方法で取り組む事が出来た。各職員は年間研修計画に沿い自己学習を行い、研修に参加した職員は研修で学んだ事を日々の業務に活かす様にしている。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
① 研修 (職場内・職場外) を実施・参加していますか	3人	11人	3人		17人
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2人	9人	5人	1人	17人
③ 地域連絡会に参加していますか	1人	8人	6人	2人	17人
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	3人	12人	2人		17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ①については毎月テーマを変え職員が講師となり、勉強会を開催し全職員で取り組む事が出来ている。コロナ禍で全員が集まり開催する事ができない時は、テーマに沿った問題を作成したり個人で取り組む事が出来る様にしている。 ④については職員会議やミーティングを活用し事故対策委員会・感染対策委員会での事例から当事業所で事故などが起きた場合を想定し、どのように対応をするべきか検討をしている。 又、起きた事柄や業務中に気が付いたリスクなども都度職員間で話し合い、改善に向け取り組んでいる。 	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響もあり外部研修への参加が出来ていない。 勤務や家庭の都合もあり参加が出来ていない。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 今後も毎月の勉強会ではすぐに業務に活かせる内容をテーマにし、職員個人だけでなくチーム全体のスキルアップに繋げて行く。個人の自己学習も継続し、リモート研修への参加などコロナ禍であっても今できる方法で新たな知識やスキルを取得し各職員の意識の向上を図る。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 2022年 9月 22日 (18: 00～ 19: 00)

9. 人権・プライバシー

メンバー
 ・野村恵美・岩崎良子・水口真由美・宮野洋美・藤原しのぶ・張光利治
 ・水野正宏・高英淑・山縣友視・伊賀祥平・市丸健治・亀田優紀・林拓弥
 ・藤江恵・新井久美・中井ミエ子・鹿子島みなみ

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	13人	1人		17人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 今後も勉強会では定期的に虐待・身体拘束についてをテーマに挙げ日々のケアについての振り返りを全職員でおこなって行く。 各職員が心にゆとりを持ち、利用者へ関わられるよう、業務担当があっても当日の出勤職員全員でお互いに声を掛けあい協力し業務を行う。 メールや手紙なども活用し家族が遠方に住んでいても情報交換を行いより密な関係を築けるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 勉強会でテーマとして取り上げ、正確な知識を共有し身につけている。又、日々の関わりの中で全職員で対応の仕方や言葉掛けなどが身体拘束・虐待にあたらぬか振り返りをしている。 一人の負担が大きくならないよう職員間で声を掛け合い連携・協力をし、業務に取り組んでいる。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	9人	8人			17人
② 虐待は行われていない	10人	7人			17人
③ プライバシーが守られている	8人	9人			17人
④ 必要な方に成年後見制度を活用している	4人	9人	2人	2人	17人
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	8人	9人			17人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①、②については定期的に勉強会のテーマとして取り上げ、全職員で正しい知識を持ち共有すると共に、日々の関わりの中で職員の言動が虐待や身体拘束にあたらぬか振り返り、再確認をしている。 ③、⑤については毎日昼に実施しているミーティングを別室で行い、内容が外部の人や利用者の耳に入らないようにしている。又、個人情報が外部にもれる事のないように書類の管理などに気を配っている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
・スピーチロックなど頭ではしてはいけない言葉掛けだとわかっているものの、送迎時や受診介助等でフロア内の職員が手薄の時に「ちょっと待って下さい」「危ないので今は動かないで下さい」と発してしまう事がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・今後も勉強会のテーマや職員会議内で取り上げ、全職員の虐待や身体拘束への理解・意識を高め正しい知識を持ち、支援をしていく。業務の中で気になる事柄があれば職員で話し合いどのようにしたら良いかその都度改善に向け取り組むようにして行く。 リスクが高い時ほど職員間でいつも以上の声の掛け合いを心掛け、協力体制を築いていけるようにする。	